

令和 元 年 5 月 1 日

学 校 経 営 に つ い て

韮崎市立韮崎東中学校

1 はじめに

人は社会生活を営むが故に人である。学校は、そのための基礎・基本を身につける場であり、生徒が将来社会の中で自己実現をするための「生きる力」をはぐくむことを目的として教育目標を設定し、教育課程を編成し、実施していかなければならない。

21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す「知識基盤社会」の時代の中で、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことがますます重要になってきている。

「生きる力」とは

- 基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力
- 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心 などの豊かな人間性
- たくましく生きるための健康や体力

のことであり、生きる力をはぐくむための具体的な内容については、次のような点が挙げられる。

(1) 確かな学力の育成

- ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得する。
- ・課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を育成する。
- ・主体的に学習に取り組む態度を育成する。
- ・言語活動の充実を図る。
- ・学習習慣を確立する。

(2) 豊かな心の育成

- 道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて行う。
- ・未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養う。
- ・教師と生徒、生徒相互の人間関係を深める。
- ・道徳的価値に基づいた生き方についての自覚を深める。
- ・体験を通じた生徒の内面に根ざした道徳性の育成に努める。
- ・配慮事項

自他の生命の尊重

法やきまりの理解

主体的に社会の形成に参画し、国際社会に生きる日本人としての自覚

(3) 健やかな体の育成

- 生徒の発達段階を考慮して学校の教育活動全体を通じて適切に行う。
- ・保健体育、技術家庭、特別活動等、それぞれの特質に応じて適切に行う。
- ・日常生活において適切な体育、健康に関する活動の実践を促す。
- ・生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う。

本校の生徒は素直で、授業や部活動、行事に集中して取り組み、その成果や日常生活における態度等は地域や保護者から高く評価されている。これは、創立以来連綿として受け継がれてきた伝統を守ろうとする生徒と、東中の教職員としての高い意識のもとに一致団結して職務に励んできた教職員の力、さらに、地域の理解や協力によるものであると思う。我々はこの伝統を継承させ、さらに発展させて行かなければならない。一方で、自己の考えを明確にしたり判断したりして、個人あるいは全体の意識を高め、より積極的に活動しようとする面では課題もある。中学生は、将来社会人として生きていく時に身に付けておかなければならない基本的な力について学ぶところである。学習や諸活動に対して消極的に受け入れるといった姿勢ではなく、自ら主体的に取り組み、活動に責任をもつ態度を身に付けさせていかなければならない。学校教育目標の達成を目指し、活力に満ちた創意あふれる教育活動を推進するとともに、活動を通して深く考える力や適切な判断力、多少の困難なことには負けない精神的にたくましい我慢強い生徒の育成を目指していきたい。

2 学校教育目標

○校訓 「切 磋 琢 磨」

○教育目標 「主体的に学び 人間性豊かで たくましく生きる生徒の育成」

- めざす生徒の姿
 - ・自ら学び自ら考え行動する生徒
 - ・豊かな心と思いやりを持つ生徒
 - ・心身ともに健康なたくましい生徒
- めざす教師の姿
 - ・学び続ける教師
 - ・生徒とともに歩む教師
 - ・健康で明るい教師
 - ・指導力のある教師
 - ・生徒理解に努め信頼される教師
- めざす学校の姿
 - ・一人一人の生徒が夢と誇りをもち、生き生きと学ぶ学校
 - *生徒一人一人が規範意識を持ち、安心して学習や生活ができる。
 - *個々の違いや良さを認め、いじめや不登校をなくす。
 - *校内が清潔であり、整理整頓されていて、学習したくなるような環境へと整える。
 - ・教師にとって、創意が生かされ働きがいのある学校
 - *確かな学力を身につけさせるために、「わかる・できる授業づくり」を実践する。
 - *教職員が積極的に生徒と関わり、情熱を傾けた教育を実践する。
 - *校務分掌が有機的に結びつき、相互理解と協調を基盤とした学校づくりに努める。
 - ・保護者や地域にとって、開かれた信頼できる学校
 - *保護者や地域へ積極的な情報発信をして、信頼と協力が得られるようにする。
 - *地域の行事へ積極的に参加したり、学校教育に外部人材を活用する。

全教職員がめざす方向をきちんと確認し、学校教育目標の具現化に努め、保護者や地域の信託と生徒の期待に応えられる、活力に満ちた学校づくりに努めなければならないと考える。

3 学校経営方針

全教職員が共通理解をする中で、一貫した教育方針に基づいて、学校教育目標の具現化を図る。

- (1) 知・徳・体の調和のとれた生徒の育成をめざし、教育基本法及び関係法令・学習指導要領・山梨県学校教育指導重点・新やまなしの教育振興プラン・韮崎市教育大綱・地域の特性・生徒の実態・保護者の願いなどを十分に考慮し、創意あふれる特色ある教育課程を編成して確実な履修に努める。
- (2) 教科・道徳・特別活動及び総合的な学習の時間の指導に工夫を加え、教師自らが授業の工夫改善を図り授業力を高める。
- (3) ふれあいを大切にして生徒理解に努め、思いやりの心情を高め、望ましい集団生活や楽しい学校生活を送れるよう、一人一人の生徒に目を向ける。
- (4) 体育・スポーツを推進し心身を鍛えるとともに、進んで自他の生命を大切にする生徒の育成を図る。
- (5) 教育における不易と流行を見定め、教育の実践者・専門職としての誇りと責任を自覚し、日々の実践と研修に努め、常に課題意識と情熱をもって教育の推進に全力であたる。

4 学校教育目標具現化のために

合い言葉 **チーム韮東中**

～課題の共有が学校を変える～

具体的取組

- (1) 「ホーレンソー」を基本に（報告・連絡・相談）
- (2) 生徒の前では同一歩調で（子どもは教師を見ている）
- (3) 授業で勝負！1年勝負！（この1年に全力を、でも見通しを持って）
- (4) 全校生徒を全教職員の指導で（東中の子だからいいわけではない）
- (5) 保護者・地域を味方に（積極的な情報発信，連絡を密に）
- (6) のりしろの部分の接着剤に（お互いに気づき，支え合う）
- (7) 記憶より記録を大事に（次年度のために文書を残す）
- (8) 会議は全員参加で（まず共通理解から）
- (9) 興味・関心・意欲を（教師自らが）
- (10) 教師も人の子（御身大切に）

今年度の課題（多忙化解消に向けて）

- ・ 3学期制へのスムーズな移行
- ・ 朝の職員打ち合わせの簡素化
- ・ 諸表簿等の電子化
- ・ 定時退校日の検討
- ・ 部活動指導の負担軽減
- ・ 行事の見直しと会議の精選